

関西大学博物館の SP レコードコレクションについて

篠 塚 義 弘

1 はじめに

関西大学博物館では、2016年度から「蓄音機で聴く SP レコード演奏会」を毎年10回程度開催している。演奏会では主に昭和初期に日本で発売された西洋クラシックの SP レコードを用いている。筆者はこの演奏会に当初から関わり、2017年度からは SP レコードの管理と演奏会の企画運営を担当している。2018年度には SP レコードコレクション・データベースの再整備を行ったので、本学博物館が保有するコレクションの概要と整備状況について報告する。

2 SP レコードコレクション所蔵の経緯

本学博物館が SP レコードを保有するようになったのは比較的新しい。きっかけは本学の教育後援会を介して大阪の上野製菓様から2007年度に上野コレクションとしてレコード約1,500枚(SPレコード約1,300枚、LPレコード約200枚)

の寄贈申し出を受けたことから始まる。しかし、その活用は初年度に学外から講師を招いて演奏会を1回開催したのみであった。その後しばらくして、かんさい・大学ミュージアムネットワークを通じて本学は、大阪芸術大学、大阪音楽大学などと交流を深めた。特に大阪芸術大学博物館の柳知明事務長(当時)からのアドバイスなどを受けて、2015年度末に蓄音機(HMV-193)を購入した。ここでいう蓄音機とは、駆動と再生・増幅機構に電気を一切使わないゼンマイで駆動する再生専用の機械式蓄音機のことである。この蓄音機を用いて2016年度から前述の演奏会を博物館特別展示室で開催し始めた。

2017年度には大阪音楽大学から大量の SP レコード(松本コレクション)を譲り受けた。2017年度に元衆議院議長の伊吹文明氏から伊吹コレクションとしてレコード約460枚(SPレコード約400枚、LPレコード約60枚)の寄贈話がもたらされ、さらに2018年度には、本学教育後援会の有志の方からアウトサイドホーン型蓄音機(Victor IV 型 Type M、1909年製)の寄贈があった。この他にも、篤志家の方達から SP レコードを寄贈いただくことが増え、現在に至っている。

演奏会場の博物館特別展示室がある簡文館は、1928(昭和3)年に本学が図書館専用として建設した建物で、千里山キャンパスで現存する一番古い建造物でもある。2018年度には大阪府指定文化財(建造物)に指定された。また、所蔵した蓄音機イギリス・グラモフォン社の HMV-193は、1928年製である。SP レコードもほぼ同じ時代である昭和1桁の年代に製作されたものがほとんどである。つまり、今から約90～100年前の音をその当時の建物と蓄音機で再生して聴くことができるのである。視聴者の方々から、SP レコード演奏は、音色が優しい、癒やされるなどエモーショナルな感想をよく聞くが、本館の特長が大いに影響していると思われる。



2019.7.10 SP レコードコンサート風景
(関西大学 KU シンフォニーホール)

3 データベースの整備

当館では2017年度に伊吹コレクションの手書きリストを EXCEL で入力した。上野コレクションのリスト化は完了していたが、レコード B 面やアルバム収録の曲名が不明であるなど、データベース整備の必要性があった。そこで、西洋クラシックのコレクションをより使いやすく、わかり易くするために、2018年度に上野コレクションを中心に伊吹コレクションも含めた SP レコード・データベースの整備を行った。

今回の整備方針は、以下の通りである。

○両コレクション共通

- ・レコードレーベルをスキャンし画像 DB 化
- ・マトリックス番号（刻印番号）の収集
- ・誤記修正及び表記の統一化
- ・同一レコードの発見

○上野コレクション

- ・B 面及びアルバム収録データの収集
- ・アルバム内の全レコード番号の収集
- ・レコード番号とアルバム番号の混在を整理
- ・作曲者名などのカタカナ表記を追加

4 コレクションの構成

西洋クラシックのみであるが、上野・伊吹両コレクションのアルバム構成枚数、作曲者名及び演奏形態（ジャンル）について集計した。

上野コレクションの構成は、アルバム 2 枚組から 8 枚組まで 214 組 912 枚と、シングル 403 枚の計 1,315 枚である。伊吹コレクションでは、アルバム 2 枚組から 9 枚組まで 55 組 195 枚とシングル 129 枚の計 324 枚である。

両コレクションともバロック音楽から古典派、ロマン派などほぼ全時代の作曲者作品を網羅して収集していることが判明した。コレクション間の時代別構成比率もほぼ同様であった。なお、演奏形態では、上野コレクションは協奏曲が、伊吹コレクションは歌曲・声楽曲がやや多いこともわかった。

5 データベース整備の効果

コレクション・データベースを整備したことにより、コレクション共通として①検索・試聴が容易となった、②マトリックス番号により、海外のディスコグラフィー（検索データベース）での音源の収録年月日の検索可能性が大幅に向

上した、などの効果があった。上野コレクションでは①B面及びアルバム内の曲名が判明した、②シングルに同一レコードがあることを一部で認識していたが、この他にも同一レコードを発見し、同一アルバムも 8 組あることが判明した、③アルバム内のレコードもレコード番号で 1 枚ずつ検索が可能となった、などの効果があり、SP レコード演奏会を実施する上で大いに役立っている。また、作曲者名などのカタカナ表記を追加することで、将来的にデータベースを公開した時に、初心者でも検索しやすくなる。

6 今後の課題

上野コレクション、伊吹コレクションの構成とデータベース整備の概要について簡単に述べてきたが、両コレクションに関して、さらに以下の整備が必要である。

- ・発売当時と現在までの調査・研究で判明している相違点の調査と注記
- ・コレクション間の整合性を図る（演奏形態の表記統一、コレクション間の重複レコードチェック）
- ・レコードの保存環境及び収納方法の見直し
- ・伊吹コレクションの邦楽レコードのデータベース化

今後もデータベースを整備・充実させて SP レコード演奏会に役立てていきたい。

謝辞：本学に最初に SP レコード寄贈の仲介をして頂いた教育後援会と森本靖一郎理事長（当時）、そして柳知明氏（元大阪芸術大学博物館事務長）には SP レコード及び蓄音機に関して専門的なアドバイスを頂きました。記して感謝いたします。

参考：「レコードの世界史：SP から CD まで」音楽之友社 1986.2 岡 俊雄著
「レコード百科―歴史から鑑賞まで―」誠文堂新光社 1981.6 宮本英世著

学術情報事務局参与・学芸員